

パートナーシップおかや

No. 31

岡谷市男女共同参画推進市民の会

歩みはゆっくりでも

岡谷市消費者の会 会長 柳澤 富喜子



消費者の会は昭和48年に発足し、今年で45年になります。世の中の変化とともに活動内容も少しずつ変わってきましたが、活動の基本は同じで変わっていません。安全安心な暮らしのための啓発・実践と、循環型社会構築のための3R=リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)に基づいた活動です。

燃やすゴミとして捨てられていた牛乳パック紙・食用廃油のリサイクル、スーパーのレジ袋の削減などは、40年前から運動として取り組んでいます。徐々に成果が現れ、定着してきました。

一人ひとりが、ちょっと“ずく”を出し、さらに地域・企業・社会が積極的に取り組めば、必ず30年後、50年後の地球温暖化の防止、限りある資源の節約等につながると思います。

消費者の会は、発足当初から女性だけで運営し、女性の目線で「今何が求められているか」、「自分たちで何ができるか」を考えてきました。そんな女性だけの当会でしたが、近年、会の活動に賛同して男性が入会してくれるようになりました。

まだまだ少人数ですが、活動にも参加していただき心強い限りです。これまでとは違う意見や、より広い視野での見方等、期待しています。

地域における組織づくり、活動の推進については、まだまだ男性中心で進められることが多く、

女性が参加して活躍するには難しい面があるとともに、女性の側にも役職等に就くことを依頼されても、周囲を気にして、ためらいを感じる人も少なくありません。

男性・女性ではなく、一人の人間として、各人がもっている個性・能力が評価され、また周りからも理解される、そんな社会になるには、もう暫く時間が必要であるのかもしれない。

一方、家庭の中では、とくに若い世代の家庭は、お互いが出来ることを協力し合いながら、またそのことを特別に意識することなく暮らしている人たちも増えており、親の世代とは随分と違ってきていると痛感しています。

「環境問題への取組」も「男女共同参画推進」も理解されてきてはいますが、まだまだ十分とはいえません。一人ひとりが、問題意識を持って行動すれば大きな力となり、ゆっくりでも一步一步前進していくものと思います。

そう遠くない将来、『男女共同参画』という言葉が『死語』になってしまった」と誰もが感じられる社会が実現されることを願うとともに、そうなることを祈っています。

交流研修会を行いました 交流のお相手は・・・「富士河口湖町」の皆さま

11月9日(木)午後、「富士河口湖町男女共同参画推進委員会」の皆さま(古屋浩会長、他8名)との「交流研修会」がもたれました。先方から岡谷市(企画課)を通じて、「男女共同参画の意識啓発・高揚を子どもを通じて行うことで一定の成果をみている岡谷市と交流したい」との要請があり、「市民の会」メンバー(小池会長他8名)が市庁舎601会議室に皆さまをお迎えしての交流研修会(懇談会)となりました。

まず、岡谷市・岡本企画課長より歓迎のあいさつをいただいた後、双方の会長から、各々の会の発足経過、日ごろの活動状況、活動を進める上での特徴、懸案事項・悩み等について報告し合いました。

市民の会(小池会長)からは、先方がとくに関心をもって来岡されたことについて謝意を伝えるとともに、子どもを通じて行ってきた具体例・成果等を紹介、以降の懇談会につながる報告がなされました。



和やかな空気に包まれた交流会となりました

その後、2グループに分かれて「男女共同参画意識をどのように啓発していったらよいのか」をテーマに、約2時間の懇談会が友好的な雰囲気の中で行われました。

富士河口湖町の皆さまは、私たちが進めている「子どもを通じて行っている活動の具体例・成果」について関心を寄せて下さるとともに、岡谷市には少ないながらも「女性区会議員」がいることに興味を示されました。また、同町の「男女共同参画推進委員会」は、町内の各種町民団体より、委員になることを委嘱された15名(女性9名、男性6名)で構成され、「家庭部会」、「職場部会」、「地域部会」の3部会に分かれて、「共通の目標である『男女共同参画の意識啓発・高揚』を図る取り組みを進めている」「推進委員は、行政より委嘱を受けていることもあり、町内の各種団体の代表であると自覚し、熱心に活動の企画・実践に当たっている」と紹介されました。

現在、私たち「市民の会」は、新規会員の拡大が進まない悩みを抱えていますが、富士河口湖町の皆さまは、この悩みを解消していく「方策(ヒント)のひとつ」を与えて下さったと感じています。(三澤 勲)

男女がともに生きるヒントをみつけよう！
開催されました「2017男女共同参画おかや市民のつどい」

開催日時：10月21日（土）11時～15時40分 開催場所：カノラホール（小ホール）
主催：おかや市民のつどい実行委員会、岡谷市、岡谷市教育委員会 協力：岡谷スカラ座
後援：岡谷市男女共同参画推進団体等連絡会、他14団体
内容：11：00～13：00

小中学生「男女共同参画社会づくりポスターコンクール」応募作品展（会場コンコース）
交流イベント：岡谷市女性団体連絡協議会（4団体）活動内容展示、「自慢の品」販売
市民の会：「小学生向け 男女共同参画カルタ」展示と活用状況の紹介
13：00～オープニングセレモニー（今井竜五市長・開会あいさつ）
「市民の会」によるプレゼンテーション「仕事と家庭の両立を」
13：20～映画「あん」（だれでも生まれてきたことの意味がある）上映会
＝（ストーリー）男女がともに支え合い相呼応しながら人生を切り拓いていく
15：30～今井郁乃実行委員長あいさつ

市民の皆さんに「男女共同参画社会」について関心をもってもらい、その実現に向けて弾みをつけたいとの願いから、10月21日（土）、「男女がともに生きるヒントをみつけよう！ 2017男女共同参画おかや市民のつどい」が開催されました。穏やかな晴天に恵まれたこの日、市内各所では運動会や秋の催しが行われていましたが、会場のカノラホール（小ホール）には、市民の皆さん約200名が集まりました。

会場玄関のロビーには、今年度の「男女共同参画ポスターコンクール」に寄せられた市内小・中学生の作品をずらりと展示し、「男女共同参画社会」を考える会場に相応しく飾ってくれました。

開場時刻（11時）からオープニングセレモニーが始まる13時まで、会場2階の小ホールホワイエでは、岡谷市女性団体連絡協議会の4団体（「岡谷市消費者の会」、「諏訪友の会」、「岡谷こども劇場」、「ガールズカウト長野県第10団」＝順不同）の皆さんと「市民の会」が趣向を凝らした「交流イベント：活動内容の展示紹介、および「自慢の品」の紹介・販売」が行われ、賑わいをみせていました（写真・左下）。



今井市長「開会あいさつ」

○13:00 オープニングセレモニー 今井市長より「開会のあいさつ」をいただきました。

- ・今後とも活力を維持した社会を作り、維持していくためには、男女が互いの良さを認め・尊重し合い、共働していくことが益々大切になってきている。岡谷市はこの具現化を目指して「男女共同参画おかやプランV」を策定し、具体的な活動・事業を進めている。市民の皆さんのご理解と積極的な参加をお願いしたい。
- ・本年の「市民のつどい」は、これまでとは趣を変え、ヒューマンタッチの映画を観ていただくことにした。鑑賞され、何かを感じていただければ幸いです。



女性団体連絡協議会（4団体）の交流イベント

○続いて、「市民の会」小池会長より、パワーポイントを使って「仕事と家庭の両立を」と題してプレゼンテーションが行われました。

- ・「市民の会」が行った「子育て中のお母さんへのアンケート」に寄せられた意見・希望等を整理して報告するとともに、「男女共に、WLB（ワーク・ライフ・バランス＝仕事と家庭の両立＝）が可能となるような生き方を」と呼び掛けました。
- ・また、岡谷市には、既に「社員の子育て応援宣言企業」が27社、「職場いきいきアドバンスカンパニー認定企業」が1社ある旨パワーポイントで紹介しました。

○13:20～15:25 映画「あん」（監督・脚本：川瀬直美、主演：樹木希林、永瀬正敏）鑑賞

《参加された皆さまから、多くの反響・感想をいただきました。》

- ・映画鑑賞という親しみのある方法で行われた「市民のつどい」でしたので、敷居をあまり高く感じずに参加出来た。このような方法だと参加し易いし、また、託児があるのはとてもよいと思った。
- ・これまで理解しようと思わなかった男女共同参画について、その「イメージ」を掴むことが出来た。
- ・映画はとても良かった。分け隔てなく生きることの大切さを改めて知った。感動のあまり涙が止まらなかった。年代の若い方、学生はもとより、より多くの方に観てもらいたい。
- ・久しぶりに、深く考えさせられる内容の映画を観ることが出来た。男も女も病弱な人も心に病を抱えている人も皆平等に、「人間として、人間らしく」生きることの大切さを改めて思い知らされた。
- ・女性団体連絡協議会（4団体）が出された展示物を見たり、直接説明を聞くことで、これまで疑問に思っていたこと、知らなかったことが理解出来てよかった。
- ・交流イベントの「自慢の品の販売」については、もっとスペースを広げてやっていただけたらなおよかった。どこでやっているか分からなかった人もいたようだ。

「男女共同参画の地域づくり懇談会」を開催しました

～市内の各種団体役員・委員の皆さまから、様々なご意見や提言をいただきました～

市民の会は、12月6日(水)夕刻、イルプラザカルチャーセンター(第7研修室)を会場に、「男女共同参画の地域づくり」をテーマに「懇談会」を開きました。お集まりいただいたのは、市内各地域で役員・委員として地域の安全・安心と発展のために尽力されている32名(男性9名、女性23名)の方々です。

区長7名(男性)、副区長2名(男性)、区・会計担当職員2名(女性)、区議会議員5名(女性)、区・保健委員会委員長2名(女性)、地区社協会長1名(女性)、地区婦人会正副会長3名(女性)、青少年健全育成協議会長1名(女性)、更生保護女性会会長1名(女性)、PTA連合会会長1名(女性)、PTA正副会長7名(女性) 《事務局＝市民の会6名(女性)、岡谷市企画課主幹1名(女性)》 (順不同)

○開会前に6グループに分かれて着席。「市民の会」小池会長の「冒頭あいさつ」に続き、次のお二人から懇談の「切っ掛けづくり(話題提供)」をしていただきました。

①今井奈々さん(岡谷市PTA連合会会長)

- ・大勢の人の前で話をする機会が増えた。岡谷市内の各学校の方々とはもとより、全国大会、ブロック大会、県内外の会合等にも出席、多くの方々と知り合い、話が出る機会が増えている。
- ・仕事に就いているが、会社・家族・周りの男性からの理解があり、務めることが出来ている。

②有賀メアリーさん(中村地区社会福祉協議会会長)

- ・「あなた女性なのによく(役職を)受けたわね」と言われた。日本の女性は「女性だけで固まる」傾向がある。女性だけの団体の中では「ほった回し(順番・輪番)」でリーダー・役員を引き受けることが出来るが、男性と一緒に組織となると自信をなくしてしまうのか受けてくれない。
- ・地域には、様々な理由で苦勞している人がいる。批判ではなく、地域がチームとなって補い合っていけば…と思う。「女はこう、男はこう」と決めつけず、互いに尊敬し合うことが大切だと思う。

○6つのグループに分かれ、参加者の中からファシリテーター(進行役)が選ばれ、懇談会が進められました。「市民の会」の6名は、懇談に加わるとともに主として記録(書記)係を務めました。懇談は、気軽に本音を語って貰おうと「ポストイット方式」を採り入れながら活発に約70分間続けられました。

○懇談会終盤の15分間、各グループから、次のような「まとめ報告」をいただきました。これは、参加いただいた皆さん全員
の共有事項であるとともに、私たち「市民の会」の今後の活動
の方向を示唆してくれる「貴重な提言」と捉えたいと思います。



6グループに分かれ活発な懇談が続きました

1) 何故、地域の役員に女性役員が少ないのか

- ① 男性の側に男女同権意識が乏しく、男性上位とする考え方が根強く残っている。女性の側も遠慮して、「女性の出る幕ではない」との意識になってしまっている。
- ② 女性は、人前で挨拶するなど「表に立つことへの不安と責任の重さ」を先に痛感してしまう。
- ③ 夫婦とも生活を維持する仕事に忙しく、子の養育・親の介護もあり、地域活動する余裕がない。
- ④ 「公の場に出ていくのは男」というのが慣習となっており、これを改めることは容易ではない。
- ⑤ 区役員は、役職毎に「これは男性」「これは女性」と決められており、異を唱える余地はない。
- ⑥ 子育て・介護・家事などで外出もままならない。家族(夫)は仕事一辺倒で協力してくれない。
- ⑦ 訓練される機会も経験もなく場馴れしていない女性に役職をもってくるのは酷だ。女性は周囲の目を気にするし、「恥をかきたくない」との意識は男性が想像する以上のものがある。

2) どうしたら「男女共同参画の地域づくり」を進めることが出来るか

- ① 「子育て応援企業」に就職している男性(夫)は、保育園に迎えに行ったり、会社勤めしながら地域の役員もやっている。女性(妻)も仕事を持ちながら、保育園迎えが出来ている。「働き方改革」に取り組み、従業員のWLBを大切にしてくれる企業・組織が増えることを期待したい。
- ② 女性は、「男の人に任せておけばいい、ついていけばよい」との考え方を捨て、自らの意識変革を図り、自信をもって一歩世の中に出ていこうと努力する。
- ③ 男性は、「固定観念的な性差別意識」を捨て、「女性の意見等は貴重なものである」と謙虚に聞く態度を身につけて実践する。
- ④ 家庭においては夫と妻が互いを尊重し合う。これは、将来を担う子への最高の躰・教育になる。
- ⑤ とくに社会・組織のトップを自認する男性は、社会全体の問題として「働く時間を少なくする」ことに取り組み、自らのライフを家族とともにエンjoyする自己改革・改造に取り組む。
- ⑥ 「男女共同参画の地域づくり」のポイントは、「家庭内での夫の理解とサポート」である。しかし、夫は、毎日残業で帰宅が遅く、サポートどころか理解する余裕すら持てないケースが多い。今こそ、働き方の「抜本的見直し」が進むよう、大きな声を上げるべきだ。
- ⑦ 男性(夫)は妻がいなくても、通常の日常生活が出来るよう「自立」しなければならない。

日時：12月9日(土) 13:00～ 会場：長野県男女共同参画センター“あいとぴあ”
 主催：長野県共同参画をめざす会(平成29年度長野県男女共同参画センターグループ企画協働事業)
 内容：第1部「基調講演」 第2部「事例紹介」の2部構成

第1部：「基調講演」講師：前長野県副知事 加藤さゆりさん(一昨年、副知事のと職を離れておられます)
 演題：「災害とこれからの地域コミュニティ」～男女共同参画の視点から～

県の要職を離れてもなお「熱き思い」が伝わってくる講演をいただきました。

- ① 誰もが安心して暮らせる時代に合った地域コミュニティづくりが必要であり、災害時には男女のニーズの違いがあることなどから、防災、復興の政策・方針の決定の場には「女性の参画」が必要である。
- ② 自然災害時における死亡者は、ほとんどの年代で女性の方が多い。平時からあらゆる分野に「女性の参画」が大切になってきている。
- ③ (信州の女性たちの活躍状況に触れながら) 男女共同参画が進まないというが、原因を探り速やかに具体的な行動に移せば結果は出る。現にそのような事例をたくさん見ることが出来るようになってきている。

第2部：「事例紹介」：東御市および諏訪市の市民団体の皆さんの取り組み事例が紹介されました

- ① 「東御市の男女共同参画の地域づくり」＝紹介者：東御市男女共同参画推進会議 清水 千枝会長、他東御市は人口約3万人。市事務局を中心に男女共同参画推進会議(有志による市民団体)・女性団体連絡協議会・男女共同参画推進委員会(市から委嘱)が連携をとりながら活動している。最も重視している活動は、毎年地区で順番に行われる「まちづくり地区懇談会」の開催。市長、公民館長、地区役員が出席し、「映画」なども多用し視覚にも訴えながら、家庭や地域づくりについての問題点など活発に話し合いが行われている。
- ② 「共に創る共同参画のまちづくり」＝紹介者：いきいき市民推進チーム☆輝く SUWA 鴨志田 明子代表会員17名(内男性6名)。様々な活動の中で、区役員・保育園保護者会・小中学校PTAへアンケートを長年実施。諏訪市は、保育園保護者会長はこれまでずっと女性であり、男女共同参画の観点から問題視されてきたが、今年度(27年度)初めて男性会長が誕生した。アンケートの経過をみると徐々にではあるが男女共同参画の土壌が出来てきた。男女共同参画意識には地域差もあり、これまでのしきたり・習慣も根強く残っているが、「映画」なども多用し、視覚にも訴えながら、柔軟に粘り強く活動を進めていきたい。

東御市のきめ細かい地区懇談会、諏訪市の長年にわたるアンケートの実施など「地道で息の長い活動」が積み重なって、男女共同参画のまちづくり・地域づくりが出来ていくことを改めて思い知らされる事例紹介でした。
 (伊藤 綾子)

12月15日(金)午後、標記セミナーが「経営戦略としての『女性活躍推進』と『働き方改革』の導入」をテーマで開催されました。(主催：長野県、東御市 共催：長野県女性活躍推進会議 会場：東御市文化会館サンテラスホール)
 「女性が活躍できる職場づくり」で成果を上げている「県内の製造業4社」と「大手生命保険会社1社」による「パネルディスカッション」に先立ち、川島高之さん(NPO法人ファーザーリングジャパン理事、元商社マン、元上場会社社長＝イクボス式経営実践者)の講演を聞くことが出来ました。その内容は、「現在を担っている経営者や組織の上司は、早急に滅私奉公精神を改め自己改革を図るべし」との警鐘ともいえるものでした。

- ① 今どきの若い世代は、女性の勤務や男性の家事育児に抵抗感がない。また地域活動や社会貢献、勉学や趣味、親の介護や子の看護・養育等、働く時間と場所に「制約ある社員」が急増している。
- ② しかし、経営者や上司の固定化した価値観・仕事のやり方・男女の役割意識が、WLB(ワーク・ライフ・バランス)・脱“長時間労働”・女性の社会活動・男性の家庭や地域活動の妨げとなり、社員の意欲減退、出産や介護離職者の増加、ひいては組織の競争力低下につながっている。
- ③ 現在、会社・企業など全ての組織に「イクボスの存在」が求められている。イクボスが多い組織

では社員の満足度・健康度・愛社精神・仕事能力が高まり、新しいモノや考え方が生まれてくる。その結果、組織の生産性向上と利益拡大につながり、「WLB and 成果アップ」という相乗効果が得られる。

- ④ 社長として「イクボス式経営」を実践した経験から、「イクボスとは、部下や次世代と社会を育てるボスであり、部下(男女を問わず)のキャリアと私生活を応援することが出来るとともに、自分も私生活を満喫し、組織の成果達成に強い責任感をもっているボスのことである」と、説かれました。

(三澤 勲)